

新潟市口腔保健福祉センター年次報告（概要）  
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

1 利用実績

(1) 急患診療

	診療日数	利用患者数	一日平均患者数
令和5年度通年	73日	675人	平均 9.2人
平常の休日	43日	255人	平均 5.9人
連休及び1日飛び休日	23日	243人	平均 10.6人
お盆（平日）	2日	21人	平均 10.5人
お盆（休日）	1日	26人	平均 26.0人
年末	1日	49人	平均 49.0人
年始	3日	77人	平均 25.7人

	男	女	計
6歳未満	35	22	57
6～17歳	47	21	68
18～64歳	209	200	409
65歳以上	76	65	141
計	367	308	675

(人)

年間利用患者数は675人で、前年の591人と比べ増加した。コロナ禍の過去3年間における平均利用者数592人と比較し、感染症の影響は少なくなっている。県外の利用者は、年間で27名だった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りで19歳～64歳が61%であった。疾病別では、う蝕、歯周疾患、その他（炎症性疾患、義歯関連など）の順が多かった。三次医療機関への紹介数は14件だった。

(2) 特別診療

	診療日数	半日診療回数	利用患者数	半日平均患者数
令和5年度通年	195日	244回	1,863人	平均 7.6人

	男	女	計
6歳未満	51	9	60
6～17歳	265	143	408
18～64歳	767	488	1255
65歳以上	79	61	140
計	1,162	701	1,863

(人)

	(人)
知的障害	679
発達障害	631
精神疾患	74
神経難病	6
染色体異常	194
感覚障害	5
認知障害	66
四肢麻痺	205
その他	3

年間のべ患者数は1,863人で、昨年の1,723人に比べ大幅に増加し、開設以来最多の人数だった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りであった。疾患別のべ患者数は、例年同様、う蝕と

歯周疾患がほとんどであった。障がい別患者内訳は、知的障がい、発達障がいがほぼ同程度で多かった。

往診（摂食嚥下評価）事業は、介護老人保健施設「緑樹苑」「白根ヴィラガーデン」、特別養老ホーム「黒埼の里」「ばんだい桜園」「まつはま園」を対象施設としている。対象施設のうち、「緑樹苑」の一部が、10月から「みどりケアセンター」に転換したため、介護医療院の利用者も含め摂食嚥下評価を実施している。6施設を対象とし、月2回往診を行った。年間のべ往診患者数は91人だった。

## 2 利用料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

別紙参照

## 3 総括・自己評価

急患診療、特別診療ともに大きなトラブルはなく、業務を行うことができた。

特別診療における今年度の一次、二次及び三次医療機関への紹介数は、それぞれ6件、2件、21件、合計29件であった。特別診療の利用者数は年々増加してきており、今後、より一層地域の一次医療機関との連携が重要と考えている。今後も、他医療機関との連携体制の構築を図り、二次医療機関としての役割を果たしていきたい。

往診（摂食嚥下機能評価）は月2回実施し、1回の往診につき2から3回、嚥下内視鏡（VE）を用いた嚥下評価を行っている。地域で摂食嚥下障害に対応できる人材育成を目的とした往診時の歯科医師の帯同は、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

「高齢者福祉施設・障がい者福祉施設に対する歯科保健事業」の口腔健診・研修事業の実施件数及び参加者数は29施設、367人だった。口腔ケア研修事業の実施件数及び参加者数は31施設、377人だった。両事業とも実施後のアンケートは、好評だった。集合型の口腔ケア研修会の参加者は15名で、参加者の所属内訳は訪問介護10名、訪問看護4名、その他が1名だった。